



TNC
通信

2020
6月号

【子年の言葉】

鼠が塩を引く……
ネズミが一度に
持っていく塩の
量は少ないが、度
重なると多くな
ることから、些
細なことも何回
と繰り返すと大
変なことになる
譬え。鼠が塩を嘗
める、ともいう。

大川さんが春の叙勲

このほど春の叙勲
で会員の大川明雄さ
んが、元県法人連合
会副会長として、旭
日双光章を授章され
ました。おめでとう
ございます。

私の友好記憶

「沈さんの事」

高橋美代子



「200号記念 私の友好
記憶」原稿など募集!

「TNC通信 200号」をお祝いで

宮城県日中友好協会会長 佐々木謙



富谷市日中友好協会の月刊紙「TNC通信」が、めでたく200号の記念すべき節目を迎えられました。これまで発行に携わって来られた皆様のご苦勞と仲間の情報紙を大切に育て上げてこられた会員読者の皆様のお支えに心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。世の中、つくづく色々なことが起こることだと思いますが、「人間万事塞翁が馬」、継続の力を信じ、貴協会の重要な情報手段としての弛みない歩みを進めさせていただきますよう、お祈り申し上げます。

「記念の200号に寄せて」

富谷市日中友好協会会長 中山耕一

日本と中国の伝統や文化を互いに尊重し合うことを基調に、富谷市日中友好協会は、様々な活動を展開してきました。協会が刻んできたこれまでの歴史は、歴代の役員や会員の皆さんと、留学生をはじめとする中国から来られた方々で築いてきた成果そのものであります。その歴史を記してきた「TNC通信」も、200号を発刊することとなりました。これまで会員の心をつなぐ通信の発刊にご尽力された皆さんにあらためて感謝申し上げます。



「第25回定期総会」を28日に行います!!

☆感染予防対策として“三密”を避け、懇親会及び会費納入は中止☆
☆6月28日(日)午後2時開始・町上会館で☆

宮城県内のコロナウイルス非常事態宣言も解除されましたが、引き続き油断なく感染予防のため、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ① 25周年記念総会でしたが、全体を60分程度で考え、来賓の招待、講演や演奏等のエンターテイメント及び懇親会は行いません。記念表彰は行います。
- ② 年会費納入の受付は行わず、振り込みに変更します。また今総会のための積立金の大半が未使用となりました。明年度も留学生招待行事の開催が厳しい状況が見込まれ、支出が抑えられます。こうした理由から、今年度は1000円とします。但し全国・県協会会員の方は『日本と中国』紙購読6000円は従来通りです。
- ③ 当日はマスクの使用をお願いします。

還暦を過ぎた私達夫婦が初めて中国へ旅した時のガイドが沈瓊(ちんきょう)さんでした。瓊さんは二十歳。目のぱっちりした、背の高い、明るい人です。たどたどしい日本語も、彼女が話すと、逆にかわいい感じでした。私たちの中国旅行はいつも瓊さんを指名しガイドをお願いしていました。美人に弱い夫は早速、彼女にのぼせ上っていたようです。三人並んだ写真を見ると夫はどれも彼女の肩を軽く抱いているのです。側にボーっと立っているのが私。(写真は蘇州・寒山寺で)

そんな訳ですっきり親しくなった私達は、彼女の上海の実家に招待された事もありました。その後、彼女は大学受験のために来日します。私達の事を日本のパパさん、ママさんと呼んでいました。ある時、彼女が恋人を連れてやってきました。彼氏は上手に餃子を焼いてくれました。しばらくして今度は「結婚しました」といって、やってきました。餃子の彼氏ではなく、張天翔君という旦那様と、生後2ヶ月の男の子・嘉宝君とお母さんなどで見えました。彼女たちの結婚式の写真を見たり、嘉宝君をあやしたり、にぎやかな楽しい晩でした。彼女たち一家が横浜中華街の近くのマンションに住んだ時、会いに行きました。嘉宝君は小学4年生になっていました。夫は嘉宝君の手を握ったまま、目を細めて離そうともしませんでした。

今、彼女は大企業のビジネスマン達に中国語を教えているそうです。なんと昨年の年賀状は見違えるように成長した嘉宝君が慶應ボーイになった入学式の写真でした。夫が生きていたらどんなに喜んだことかと思えます。必ず将来、嘉宝君が中国と日本の懸け橋となって活躍されることでしょう。瓊さんいろいろと本当にありがとう。